

神奈川県 の 羊 歯 植 物
(補 遺)

大 谷 茂

Fern Flora of Kanagawa Prefecture, Japan
(Supplement)

Shigeru OHTANI*
(With 2 plates)

This is a supplement to the report on new localities and additional species which have been recorded for "Fern Flora of the Kanagawa Prefecture, Japan" in Science Report of the Yokosuka City Museum as follows:—

1. (1966) No. 1—No. 72
Psilotaceae, Equisetaceae, Lycopodiaceae, Selaginellaceae, Isoetaceae, Ophioglossaceae, Botrychiaceae, Osmundaceae, Lygodiaceae, Gleicheniaceae, Hymenophyllaceae, Pteridaceae, Parkeriaceae, Davalliaceae, Plagiogyriaceae
2. (1967) No. 73—No. 112
Aspidiaceae (Acrostopteris, Arachniodes, Athyrium, Cornopteris, Ctenitis, Cyrtomium)
3. (1968) No. 113—No. 153
Aspidiaceae (Diplazium, Dryopteris, Gymnocarpium, Leptorumohra)
4. (1969) No. 154—No. 197
Aspidiaceae (Lunathyrium, Matteuccia, Onoclea, Polystichum)
5. (1970) No. 198—No. 219
Aspidiaceae (Stegnogramma—Leptogramma, Thelypteris—Phegopteris, Woodsia)
6. (1971) No. 220—No. 224
Blechnaceae
7. (1972) No. 225—No. 236
Aspleniaceae
8. (1976) No. 237—No. 263
Polypodiaceae, Vittariaceae, Marsileaceae, Salviniaceae

Ten years have passed since the first report was published, so the records of localities and species require addition, revision and supplementation.

* 横須賀市博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238, Japan

原稿受理 1976 年 7 月 21 日 横須賀市博物館業績第 255 号

Collections Examined:

TI, Department of Botany, Faculty of Science, University of Tokyo,
YCM, Yokosuka City Museum, Yokosuka,
NSM, National Science Museum, Tokyo,
TUE, Tokyo University of Education, Tokyo.

I. は じ め に

この報告は先に発表してきた「神奈川県産の羊歯植物」の補遺である。

本誌に次のように神奈川県産の羊歯植物について、種類とその分布を継続して報告してきた。

1. (1966) No. 1~No. 72

マツバラン科, トクサ科, ヒカゲノカズラ科, イワヒバ科, ミズニラ科, ハナヤスリ科, ハナワラビ科, ゼンマイ科, カニクサ科, ウラジロ科, コケシノブ科, ワラビ科, ミズワラビ科, シノブ科, キジノオシダ科。

2. (1967) No. 73~No. 112

オシダ科 (ウスヒメワラビ属, カナワラビ属, メシダ属, シケチシダ属, カツモウイノデ属, ヤブソテツ属)。

3. (1968) No. 113~No. 153

オシダ科 (ヘラシダ属, オシダ属, ウサギシダ属, ナライシダ属)。

4. (1969) No. 154~No. 197

オシダ科 (ミヤマシケシダ属, クサソテツ属, コウヤワラビ属, イノデ属)。

5. (1970) No. 198~No. 219

オシダ科 (アミシダモドキ属=ミゾシダ属, ヒメシダ属, イワデンダ属)。

6. (1971) No. 220~No. 224

シシガシラ科 (シシガシラ属, コモチシダ属)。

7. (1972) No. 225~No. 236

チャセンシダ科 (チャセンシダ属, コタニワタリ属)。

8. (1976) No. 237~No. 263

ウラボシ科, シシラン科, デンジソウ科, サンショウモ科, アカウキクサ科。

この間、10年を経過している。したがって新産地の追加、その後の採集者、学名などの訂正や新しく種の増補などがあって、ここに補遺を必要としたので、報告をする。

新しく増補した種は、No. 264 トガクシイヌワラビ (*Athyrium* 属のところに), No. 265 サイシュウヒカゲワラビ (*Diplazium* 属のところに), No. 266 フジオシダ (*Dryopteris* 属のところに) の3点である。この通し番号は将来整理するときは、それぞれの属の配列のなかに入れるものである。

この報告の種の番号は、すでに先に発表した番号で、本文のものと照合することが望ましい。

増補したシダの大部分の科・属・種の配列および学名は行方・倉田 (1961) 両氏共編の日本産シダ植物総目録によっている。さらに中池敏之氏の羊歯植物総目録 (1975) の学名を採用し、訂正を試みた。

本館以外の標本は大場秀章、芹沢俊介両先生にお世話になったことが多く、ここに改めて謝意を表する。

II. 神奈川県産の種類とその分布

1. *Psilotum nudum* (LINN.) GRISEBACH マツバラン

平塚市内 (萩原喜一, 1963. 9. 29) このシダを平塚市内で、その自生を発見された萩

原喜一氏は当時神奈川県立平塚農学校の教諭で植物の分類にくわしい人であり、これをシダ植物にあかるといふ平塚の府川勝蔵氏が確認し同定されたことを著者は聞いているので、ここに報告しておく。

マツバランは大谷 (1966) においてのべているように SAVATIER 氏が横須賀付近で採集しているものである (SAVATIER, No. 1519)。千葉県君津郡と安房郡の境で内房の金谷や保田に近いところにある鋸山付近には今でも見られる。また本県の鎌倉にも今日自生しているのであるから、横須賀付近の自生も一応その可能性はみとめられるが、横須賀は勿論のこと三浦半島に今日まだ確認することができない。

2. *Equisetum arvense* LINNAEUS スギナ

葉山町長柄二子谷 (西條好通, 1966. 3. 18—孢子穂をつけた孢子茎「つくし」Photo)。
平塚市下吉沢 (守矢淳一, 1970. 4. 5 YCM)。

4. *Equisetum palustre* LINNAEUS イヌスギナ

平塚市下吉沢字大山田 (守矢淳一, 1970. 6. 3 YCM)。

5. *Equisetum ramosissimum* DESFONTAINES

var. *japonicum* MILDE イヌドクサ

横須賀市林 (小板橋八千代, 1967. 8. 20 YCM)。

平塚市^{まとい}縄 (守矢淳一, 1970. 5. 31 YCM)。

6. *Lycopodium cernuum* LINNAEUS ミズスギ

箱根駒ヶ岳中腹の硫黄山—最初の自生地であった大涌谷の反対側 (1973. 7. 4 付朝日新聞に報道された)。

地元の人がミズスギと知らずに採取してきたことから、上記のところに発見されたことは、よろこばしい限りである。現地調査によると蒸気を噴出している山の斜面に3つの群落を作っているということである。恐らく昔から自生していたのであろうが、急斜面で人が近づけないことなどによって今日まで無事に残ってきたものであろうといわれている。箱根では絶滅したといわれただけに、今度の発見を契機に永久に保護したいものである。

ミズスギは本州中部以西の暖帯に本拠をもつもので、関東以北では箱根の大涌谷、長野県の中房温泉、岩手県の滝上温泉、北海道胆振の登別温泉と、どこも温泉地の蒸気噴出口付近に見られる珍しい特殊的存在のシダとして知られてきた。ところが箱根大涌谷のミズスギは全滅して惜しまれていた。

著者は1962年7月7日、鹿児島県熊毛郡屋久町屋久島の^{みなゆき}船行で火山灰層の切通し路の斜面に一面に匍匐しているミズスギ群落に接したが、ここは温泉には無関係のところであった。

7. *Lycopodium clavatum* LINNAEUS

var. *nipponicum* NAKAI ヒカゲノカズラ

^{のび}横須賀市野比 2114—通称、^{まつば}松葉 (大谷 茂, 1976. 5. 15—自生を確認)。

自生地は著者の友人、浅葉幸蔵氏の持ち山で同氏の庭に接した山足斜面で数株群落状に匍匐していた。追記 同年 10 月 8 日、再び自生地を訪ね、その生態を撮影し、そのうちの 1 株を腊葉標本にした。

12. *Lycopodium Sieboldii* MIQUEL ヒモラン

本種を飯田 和氏は足柄下郡湯河原町奥湯河原で確認されている。この自生地は脇田園輝、陣野一郎氏が発見したもので、飯田氏はさらにこの発見地付近と別のところで新しい株を発見された〔文献産地、1959 (飯田, 1963)〕。

13. *Selaginella nipponica* FRANCHET et SAVATIER タチクラマゴケ

横須賀付近 (SAVATIER, No. 2415—文献産地, 1879)。

丹沢山塊: 幽神^{ゆうしん}〜玄倉^{くろくら} (大場秀章, No. 10900, 1962. 8. 24 YCM)。

20. *Ophioglossum petiolatum* HOOKER コヒロハハナヤスリ

鎌倉市: 寿福寺 (大谷 茂, 1969. 6. 25 確認)。このときはヤトミウラボシを同寺の境内で発見したときで、ヤトミウラボシのすぐ付近の樹木の根元に群生し、子囊穂をみなだしていた。

22. *Ophioglossum vulgatum* LINNAEUS ハルハナヤスリ (オオハナヤスリ, ヒロハハナヤスリ)

三浦郡葉山町一色, 平松 (大谷 茂, 1971. 4. 27 確認, 一部を採取し植栽したが今日なお健在)。昭和 46 年のこの日、園 伊玖磨夫妻および祖父江羊巳氏を横浜市戸塚区岡津町岡津にクマガイソウ、イチリンソウ、アマナなどを案内したときで、葉山に帰ってから祖父江氏の住所付近上記自生地を確認したのである。祖父江氏の依頼で見にいったところヒロハハナヤスリの大群落であった。そこは丘陵地のアズマネザサ林縁であった。

25. *Japanobotrychium virginianum* (LINN.) NISHIDA ex TAGAWA ナツノハナワラビ

横浜市: 戸塚区中野町 (長谷川義人, 1966. 4. 17 YCM)。

鎌倉市: 今泉, 長久保, 散在池^{さんざいがいけ} (石渡 宏, 1960. 8. 16 YCM)。

丹沢山塊: 足柄上郡山北町簗沢^{はうきざわ} (渡辺宗徳, 1961. 5. 13 YCM)。

26. *Sceptridium japonicum* (PRANTL) LYON オオハナワラビ

三浦郡葉山町上山口新善光寺 (小板橋八千代, 1966. 11. 7 YCM)。

28. *Sceptridium ternatum* (THUNB.) LYON フユノハナワラビ

横須賀市: 吉井安房口神社^{よしあきぐち} (大谷 茂, 1966. 11. 15, 大群落 YCM)。

鎌倉市: 建長寺境内, 川村瑞軒墓付近 (間瀬美保子, 1960. 9. 18 YCM)。この自生地は同寺の大学の池→半僧坊の方向に左へ少し進んだ所である。ちょうど鎌倉学園中・高校の運動場の裏にあたる。

三浦郡葉山町長柄奥, 二子山径路 (大谷 茂, 1970. 3. 20 確認, 1 株採取植栽したがよく活着している)。このときは團 伊玖磨夫妻を逗子の二子山ならびにコジキ沢, ウナギ淵に案内したときで, ミヤマウズラ群落地帯付近の林中に大群落をなしていた。

丹沢山塊: 津久井郡と足柄上郡の境にある蛭が岳 (小粥康治, 1962. 9. 22 YCM)。

29. *Osmunda* × *intermedia* (HONDA) SUGIMOTO オクタマゼンマイ (オオバヤシャゼンマイ)

平塚市: 上吉沢市場 (守矢淳一, 1971. 8. 1, オオバヤシャゼンマイ型, YCM)。

津久井郡: 城山町畑久保 (守矢淳一, 1967. 8. 1, オクタマゼンマイ型, YCM), 同 (守矢淳一, 1967. 8. 19, オオバヤシャゼンマイ型, YCM)。

本種はゼンマイとヤシャゼンマイとの間種である。

30. *Osmunda japonica* THUNBERG ゼンマイ

三浦市: 南下浦町上宮田 (小坂橋八千代, 1966. 9. 4, ハゼンマイ, YCM)。この標本は裸葉の先に実葉片がついたもので, よく見かけられ, ハゼンマイといわれている。

ゼンマイは裸葉と実葉とが, はっきりしている 2 形葉のシダであるが, このような裸葉と実葉の中間移行形の 1 種の畸形を生ずることがあるのである。これらは栄養状態の悪いときに起る型であって, 実葉の起原に役立つような奇形である。

著者の庭の大きなゼンマイの株 (図版 2-4, 5) は根元が 4 株になり, 春の始めに実葉を出し, 実葉が終るころ裸葉が出た。5 月上旬に根元から全部刈り取ってしまった。ところが 6 月上旬には再び盛んに裸葉がでてきた。もちろん裸葉だけであつたが, ほとんどすべての葉が (1. 5 葉全部, 2. 4 葉のうち 3 葉, 3. 5 葉全部, 4. 6 葉) のうち 4 葉先端 1/3 くらいまでソーラスがついて半実葉化しているハゼンマイである。一時はいためつくされて栄養状態がわるくなったのであろうか, それとも大きな刺戟をうけて繁殖力が旺盛になったのであろうか, 予期しなかった小さな実験であつた。

32. *Osmunda cinnamomea* LINNAEUS

var. *fokiensis* COPELAND ヤマドリゼンマイ (ヤマドリシダ)

箱根: 足柄下郡箱根町仙石原 (沢田武太郎, 1935. 5. 28, Photo, 文献産地。沢田武太郎氏発表の文献の一部を紹介する「昭和 10 年 5 月 28 日, 仙石原村字イタリの湿地中を貫流する一小流畔の樹陰中にヤマドリシダ *Osmunda cinnamomea* LINNAEUS var. *asiatica* FERNALD を見出した。これは管見によれば箱根は言うに及ばず神奈川県としても恐らくは最初の発見であろうと思われる」。

本種の *Osmundastrum* Pr. の属名を改めゼンマイにし学名を訂正した。

33. *Lygodium japonicum* (THUNB.) SWARTZ カニクサ

逗子市: 神武寺 (小森有喜, 1930. 12. 21 YCM)。

中郡: 大磯町高麗^{と*}一高麗山 (小森有喜, 1930. 10. 12 YCM)。

34. *Dicranopteris pedata* (HOULT.) NAKAIKE コシダ

横須賀市：野比^{ひさぎ}～久里浜（桧山庫三，1949. 12. 6，報告を確認した）。

逗子市：久木火薬庫，鎌倉との境界線付近（間瀬美保子，1975. 11. 16 YCM）。

足柄下郡：真鶴町真鶴公園内イハリ山，小学校とゴルフ場の間（田代信二，1961. 4. 1 自生地確認）。

本種の学名を訂正した。

35. *Gleichenia japonica* SPRING ウラジロ

横浜市：緑区三保町，旧上白根町（内田光雄，1972. 12～1973. 1. にかけて数株を確認した。このうちの1株は北向き斜面で，5 段くらいになった発育良好のものもあった）。

横須賀市：大田^{おおた}和扇山（赤星直忠，1962. 3. 4，自生地^{よしい}確認），吉井安房口神社入口の左側斜面（河本泰明，1966. 11. 20，自生地確認），大矢部旧陸軍衣笠弾薬庫跡地（石渡治一・雑賀昭二・金子 要，1975. 2. 21，自生地確認）。

36. *Crepidomanes insigne* (v. d. BOSCH) FU アオホラゴケ

逗子市：神武寺（榎山泰一，1931. 6. 14 TI）。

足柄下郡：湯河原町奥湯河原（芹沢俊介，1973. 11. 18 TUE）。

43. *Lacosteopsis* (Prantl) Nakaike ハイホラゴケ属

Lacosteopsis orientalis (C. CHR.) NAKAIKE ハイホラゴケ（ホラゴケ）

逗子市：神武寺（小森有喜，1930. 12. 21 YCM）。

本シダの属名ならびに学名を訂正した。

40. *Mecodium* Pr. ex Copel. ホソバコケシノブ属

Mecodium coranum (NAKAI) SERIZAWA ヒメコケシノブ

本種の属名ならびに学名を訂正した。

44. *Adiantum capillus-veneris* LINNAEUS ホウライシダ

横浜市：金沢区六浦町金龍院（高桑正敏，1962. 3. 9，この標本を同定確認している），戸塚区品濃町（村上司郎，1971. 7. 26，横浜植物会第 17 回植物展（1974）に出品された標本を確認している）。

横須賀市：浦賀，京浜急行浦賀駅構内（石川芳明，1965 発見，同年この自生地を何回となく確認していた，ところが 1970 年この自生地一帯の岩壁にコンクリートを吹きつけたため絶滅してしまった）。

藤沢市：江ノ島（小森有喜，1931. 6. 25 YCM）。その後は江ノ島神社付近の岩壁によく見られたシダであるが，最近は少なくなったようである。

このシダはもともと観賞用に栽培したものが逸出し帰化状態になったものである。

45. *Adiantum monochlamys* EATON ハコネシダ

足柄上郡^{やまきた しやすい}：山北町洒水滝（渡辺宗徳，1960. 5. 29 YCM）。

46. *Adiantum pedatum* LINNAEUS クジャクシダ

横浜市: 緑区三保町, 旧保土ヶ谷区上白根 (内田光雄, 1966. 7. 24, この標本を確認している), 戸塚区品濃町 (村上司郎, 1971. 7. 26, 横浜植物会第 17 回植物展—1974—に出品された標本を確認している)。

三浦郡: 葉山町上山口, 木古庭^{きこぼ} (小板橋八千代, 1966. 9. 12 YCM)。

丹沢山塊: 愛甲郡札掛〜タライゴヤ沢〜塔ヶ岳〜龍が馬場コース (大場秀章, No. 10807, 1962. 8. 22 YCM), 塔ヶ岳〜足柄上郡ユーシン〜桧洞 (ヒノキボラ) 沢コース (大場秀章, No. 10869, 1962. 8. 23 YCM)。

50. *Dennstaedtia hirsuta* (SW.) METTENIUS ex MIQUEL イヌシダ

横浜市: 金沢区朝比奈峠 (山田昌代, 1967. 8. 17, この標本を確認している)。

横須賀市: 武^{たけ}, 武山 (石渡裕之, 1967. 8. 24, この標本を確認している)。

丹沢山塊: 塔ヶ岳 (愛甲郡, 中郡, 足柄上郡の境にある) 〜足柄上郡ユーシン〜桧洞沢コース (大場秀章, No. 10874, 1962. 8. 23 YCM)。

学名のうち命名者のところを訂正した。

51. *Denstaedtia scabra* (WALL. ex HOOK.) MOORE コバノイシカグマ

学名の旧命名者を訂正した。

52. *Dennstaedtia Wilfordii* (MOORE) CHRIST オウレンシダ

横浜市: 瀬谷区瀬谷 (村上司郎, 1971. 8. 27, 横浜植物会第 17 回植物展—1974—に出品された標本を確認している)。

鎌倉市: 山ノ内, 北鎌倉, 円覚寺 (桑田健吾, 1959. 9. 24 YCM)。

学名の命名者を訂正した。

53. *Hypolepis punctata* (THUNB.) METTENIUS ex KUHN イワヒメワラビ

三浦市: 初声町^{はつせ}, 下宮田 (石渡 宏, 1970. 10. 10, 裸葉. YCM)。

追記 横須賀市深田台 29 駐車場の石垣 (砂岩質) (渡辺次雄, 1976. 9. 25 採取一同自生地を同年 9 月 26 日著者は確認し, さらに 10 月 20 日撮影するとともに一部を採取し, 腊葉標本をつくる)。

学名中, 命名者を訂正した。

54. *Microlepia marginata* (PANZER) C. CHRISTENSEN フモトシダ

横浜市: 金沢区六浦町^{むつうら} (高桑正敏, 1967. 6. 10, この標本を確認している)。

56. *Onychium japonicum* (THUNB.) KUNZE タチシノブ

横浜市: 金沢区六浦町 (高桑正敏, 1963. 5. 25, この標本を確認している), 金沢区朝比奈峠 (矢戸玲子, 1967. 8. 17, この標本を同定している)。

丹沢山塊: 塔ヶ岳 (愛甲, 中, 足柄上の 3 郡の境) 〜足柄上郡ユーシン〜桧洞沢 コース

(大場秀章, No. 10873, 1962. 8. 23 YCM)。

本種は横須賀市佐野町 3-41 (著者の敷地内) 林縁の崖地に自生し, 群生している。

57. *Pleurosoriopsis makinoi* (MAXIM. ex MAKINO) FOMIN カラクサシダ

学名中, 旧命名者を訂正した。

58. *Pteris cretica* LINNAEUS オオバノイノモトソウ

中郡: 大磯町高麗^{こま}, 高麗山 (渡辺宗徳, 1960. 7. 21 YCM)。

足柄下郡湯河原町奥湯河原 (中池敏之, 1970. 12. 30 YCM)。

58-a. *Pteris nipponica* SHIEH マツザカシダ

横須賀市: 大矢部, 旧陸軍衣笠弾薬庫跡地の山林 (石渡治一・雑賀昭二・金子 要, 1975. 2. 21, このときの採取品の 1 株を入手された石渡 宏氏は 1 葉を腊葉標本として, 残りを植栽し写真も撮られた (図版 2-1) 採取されたのは裸葉だけで実葉はなかったがみごとな白斑が出ている。その標本並に写真を著者は同年 5 月 18 日に同定している)。

昭和 50. 3. 12 付, 神奈川新聞全県版に, このときの植物調査の結果が報道され, マツザカシダは三浦半島初記録となっているが, これは大きな誤りである。

マツザカシダはすでに各氏によって次のように採集されているものである。横須賀市観音崎 (大谷 茂, 1954. 7. 14 YCM), 三浦郡葉山町上山口 (小板橋八千代, 1965. 12. 18 YCM), 横浜市金沢区六浦 (村上司郎, 1959, この標本を確認している), その他, 逗子市神武寺ならびに三浦郡葉山町二子谷や藤沢市江ノ島も文献産地 (増島・石渡, 1950; 宮代, 1958) として古くから知られていた。追記 最近では, 横須賀市大作^{おおさく} (大谷 茂, 1976. 10. 22) で著者は採取している。

本種の裸葉は特にその中肋に沿って, しばしば白斑がでるので知られているが, この白斑の有無に関係なく, オオバノイノモトソウとは明らかに区別されるのである。その区別点は (大谷, 1966) にすでに述べたとおりである。したがって従来オオバノイノモトソウの変種としてあつてきたのを, ここでは上記のように別種として独立させたのである。種の番号は将来総括の際に新しく設けることにする。

独立種として学名を訂正した。

59. *Pteris dispar* KUNZE アマクサシダ

平塚市: 土屋字田代 (守矢淳一, 1971. 8. 1 YCM)。

60. *Pteris excelsa* GAUDIN オオバノハチジョウシダ

学名を訂正した。

61. *Pteris excelsa* GAUDIN

var. *simplicior* (TAGAWA) SHIEH オオバノアマクサシダ

学名を訂正した。

62. *Pteris multifida* POIRET イノモトソウ

愛甲郡：宮ヶ瀬村（現在、清川村）落合（逸見 操，1956. 10. 10 YCM）。

本種は横須賀市佐野町 3-41 の自宅敷地内の崖地や井戸の周辺に古くから群落をつくって自生している。

65. *Pteridium Gleditsch* ex Scopoli ワラビ属

Pteridium aquilinum (LINN.) KUHN

var. *latiusculum* (DESV.) UNDERWOOD ex HELLER ワラビ

本種の学名中、属名ならびに学名の命名者を訂正した。

66. *Sphenomeris biflora* (KAULF.) AKASAWA ハマホラシノブ

横浜市：中区本牧，元町～大里町の間で，旧本牧八王子海岸および八聖殿下の海岸，現在この辺は本牧市民公園となっている（斎藤照一，1957. 7. 29 YCM），（大谷，1973，1974）。斎藤氏は上記の場所で岩壁の中間に群生しているのを昭和 25 年ごろから気付いていたようである。この自生地の大群落を著者も昭和 47 年 6 月 1 日に親しく確認した。この地は以前は崖の下まで海水がせまって波の飛沫がかかっていたところで，ハマホラシノブにぴったりの生育環境である。斎藤照一氏の発見当時のことについては，横須賀市博物館雑報 No. 19 (1974) などにすでに著者は発表しているので，ここには省略する。

三浦市：南下浦町毘沙門（間瀬美保子，1963. 5. 26 発見），現地再調査（間瀬美保子，1974. 3. 21，健在なことを確認し著者に報告された），現地視察一関瀬弥夫妻の案内で（大谷 茂，1974. 4. 10）。

三浦市：初声町，^{はつせ}三戸^{みとはま}浜海岸（西山清治・石井藤太郎，1974. 7. 26，このとき採集した 1 葉を著者は本種と同定し，その自生を確認した），同地再調査（西山清治，1974. 9. 6，このときは，僅か 1 株，それも海水のしぶきをうける崖の下方にあったというが，何によって失われたか，不思議である）。

何れにしても久しく疑問視されていた三浦半島におけるハマホラシノブが自生可能となったことは大きな収穫といえる。

67. *Sphenomeris chinensis* (LINN.) MAXON ホラシノブ

横浜市：金沢区六浦町（高桑正敏，1961. 12. 10，この標本を確認している）。

学名を訂正した。

69. *Davallia mariesii* MOORE ex BAKER シノブ

学名中，命名者を訂正した。

70. *Plagiogyria euphlebia* (KUNZE) METTENIUS オオキジノオ

逗子市：東逗子，沼間落雁の里→桜山丘陵への径路，杉林内（大谷 茂，1967. 10. 29 YCM, Photo. 一八田羽栄一）。このときの写真は横須賀市博物館雑報 No. 13, p. 24 (1968) に出ている。

71. *Plagiogyria japonica* NAKAI キジノオシダ

横浜市：中区根岸，善行寺池畔杉林中（久内清孝，1911. 10. 23 TI）。

三浦半島，三浦富士（寺本一雄，1947. 4. 13，裸葉. TI）。この三浦富士は横須賀市武山風致地区の東端，同市津久井にある富士山（海拔 183.66 m）のことで，浅間社がまつられていて浅間山とも称されている。三浦半島にはオオキジノオが見られるが，キジノオシダは少なく，三浦富士での採集は珍しいものである。

逗子市：沼間小山（裸葉新道に沿った山）（石渡 宏，1975. 5，この標本を確認している）。

72. *Plagiogyria semicordata* (PR.) CHRIST

subsp. *Matsumureana* (MAKINO) NAKAIKE ヤマソテツ

本種の学名を亜種名に訂正した。

74. *Arachniodes amabilis* (BL.) TINDALE オオカナワラビ

平塚市：^{かみきさわ}上吉沢大山の杉林中（守矢淳一，1974. 8，文献産地）（守屋，1975）。

75. *Arachniodes aristata* (FORST.) TINDALE ホソバカナワラビ

相模：鎌倉（K. TERAMOTO，1947. 12. 15 TI）。この寺本一雄氏の標本のラベルには“*Rumohra aristata* var. *pseudo-aristata* H. ITO, det. K. TERAMOTO” となっているが，この標本そのものはコバノカナワラビではなくてホソバカナワラビである。

平塚市：上吉沢，大山の杉林中（守矢淳一，1974. 11，群落を確認—守屋，1975）。

76. *Arachniodes* × *Kenzo-Satakei* (KURATA) KURATA カワズカナワラビ

足柄下郡：湯河原町，奥広河原，藤木川上流左側山地（石渡 宏，1969. 12. 14，裸葉 YCM）。これは関東有志採集会の折，石渡 宏氏が，リョウメンシダの群落中で 1 株発見したもので，同日の指導者，倉田 悟先生が同定されたものである。この株の実葉は中池敏之氏に渡された。

附記。ジンムジカナワラビ（神武寺カナワラビの意）

逗子市：神武寺，境内右手の谷（中池敏之，1975. 5. 18, NSM）。このときは関東有志採集会の折である。リョウメンシダの大群落中に，カワズカナワラビに似ているが，頂羽片がややはっきりしていて，また最下羽片の外側第 1 小羽片が明らかに長い点のカワズカナワラビとはちがっている。中池敏之先生はリョウメンシダ × ホソバカナワラビと直感された。神武寺には昔はコバノカナワラビも見られたが，ホソバカナワラビに比し，数量的にはるかに少なく，今は殆んど見られない状態である。それにくらべてホソバカナワラビは群落自生地の北限とされているくらいで実に豊富である。したがってジンムジカナワラビは中池先生の喝破されたようにリョウメンシダ × ホソバカナワラビの可能性は充分あるように思われる（中池，1975）。

77. *Arachniodes Maximowiczii* (BAK.) OHWI ナンタイシダ

丹沢山塊：足柄上郡桧洞沢（城川四郎，1960. 10. 25 YCM）。

本種は今までカナワラビ属としたり，またオシダ属とされたりしていたものであるが，杉本順一氏はナンタイシダ属 [*Athyriumohra* (H. ITO) SUGIMOTO] を独立させて，ナンタイシダの学名を *Athyriumohra maximowiczii* (BAK.) SUGIMOTO としている。

80. *Arachniodes sporadosora* (KUNZE) NAKAIKE コバノカナワラビ

逗子市：神武寺（津山 尚，1932. 11. 29 TI）。

鎌倉：比企ヶ谷（寺本一雄，1949）は削除する。故寺本一雄氏の残された記録（1948）に“*Rumohra aristata* CHING var. *pseudo-aristata* H. ITO コバノカナワラビ，本州南部から台湾に分布する暖地性羊歯である。*R. aristata* ホソバカナワラビは相模にも多いが，本種は伊豆，房総には多いが相模にはあまり見掛けない。“筆者の知る限りでは相模鎌倉比企ヶ谷に自生する”とあるが，東京大学にはこの標本はなかった。そこでこの記録にもとずいてすでに報告済だが，ここに除外することにした。寺本氏の東大の標本中にはホソバカナワラビと同定できる標本が，ただ1点あって，そのラベルには次のように記してある“相模，鎌倉 Dec. 15, 1947, K. TERAMOTO, *Rumohra aristata* var. *pseudo-aristata* H. ITO, det. K. TERAMOTO”これは寺本氏がコバノカナワラビと同定されているが，標本そのものはホソバカナワラビである。したがってこの寺本氏採集の鎌倉の標本をホソバカナワラビの項に加えた。

本シダの学名を訂正した。

81. *Arachniodes simplicior* (MAKINO) OHWI ハカタシダ

中郡：伊勢原町大山（逸見 操，No. 3214, 1954. 5. 28, この標本を著者が同定した）。

足柄上郡：山北町洒^{しやれい}水滝（渡辺宗徳，1960. 5. 29 YCM）。

ハカタシダは裸葉の中軸に沿って，しばしば白斑の条がでるものである。石渡 宏氏はこの種のハカタシダを東京都下高尾山で，1968. 3. 29 採集された。その1部を著者の庭に植栽したところ毎年裸葉に白斑があらわれる。しかしまだ実葉にはあらわれたことがない。

82. *Arachniodes simplicior* (MAKINO) OHWI

var. *major* (TAGAWA) OHWI オニカナワラビ

津久井郡：城山町畑久保（守矢淳一，1967. 8. 1 YCM, この標本は著者が同定した）。

83. *Arachniodes Standishii* (MOORE) OHWI リョウメンシダ

横浜市：金沢区朝比奈峠（高桑正敏，1962. 2. 10, この標本は著者が同定をしたものである）。

85. *Athyrium deltoideofrons* MAKINO サトメシダ

足柄下郡：箱根町仙石原（府川勝蔵・大谷 茂，1936. 8. 29, 府川氏所蔵標本を確認し

た、著者のこの標本は戦災で焼失した)。

90. *Athyrium mesosorum* (MAKINO) MAKINO スリワラビ

丹沢山塊: 足柄上郡山北町玄倉, 玄倉林道 (城川四郎, 1965. 9. 5 YCM)。

箱根: 足柄下郡箱根町, 須雲川 (守矢淳一, 1968. 6. 30 YCM)。

91. *Athyrium* × *multifidum* ROSENSTOCK オオサトメシダ

本種は *Athyrium deltoideofrons* × *A. vidalii* であるから学名を雑種名に訂正した。

153: *Athyrium nikkoense* MAKINO イワイヌワラビ

箱根: 足柄下郡箱根町台ヶ岳 (城川四郎, 1965. 10. 11 YCM)。この種は神奈川県新産のシダで本誌 No. 14 (1968) において増補発表した将来分類の配列を訂正するときは、この位置に移すべきものである。

93. *Athyrium niponicum* (METT.) HANCE

monstr. *metallicum* (MAKINO) NAKAIKE ニシキシダ

本シダは品種名で報告したものであるが、これをここでは奇形として扱う学名に訂正した。

96. *Athyrium Vidalii* (FRANCK. et SAV.) NAKAI ヤマイヌワラビ

平塚市: 上吉沢字立石 (守矢淳一, 1970. 9. 6 YCM)。

増補 (264). *Athyrium Vidalii* (FRANCH. et SAV.) NAKAI

form. *togakusiense* KURATA トガクシイヌワラビ (倉田, 1963), Ch (d)
D₁ R₃

平塚市: 土屋字池田前 (守矢淳一, 1969. 6. 28 YCM)。守矢氏はこのとき 1 株から 3 枚の葉を採取し標本をつくり、倉田先生と著者に各 1 枚宛送られた。著者には 1971 年 7 月 13 日に送られた。

この種はヤマイヌワラビの品種で、ケヤマイヌワラビの葉の表面に微毛が多いもの (したがって光沢がない) に比して、羽軸の下面に細毛の密布するものである。

本品種は、越後、信濃の戸隠山で知られたもので本県では新産のシダである。

この報告における本県のシダ植物の通し番号は (264) となるのであるが、分類配列を整理したときはこの位置付近に入る。

98. *Athyrium Wardii* (HOOK.) MAKINO ヒロハイヌワラビ

本種の和名を訂正した。また解説中の發育良好品もオオヒロハイヌワラビと訂正する。

99. *Athyrium yokoscense* (FRANCK. et SAV.) CHRIST ヘビノネゴザ

横浜市: 旭区^{やさしちょう}矢指町 (村上司郎, 1971. 8. 18, 横浜植物会第 17 回植物展 [1974] に出

品された標本を確認した)。

横須賀市：浦郷^{うらごう}2丁目 79, 正観寺, 寺林内 (石渡 宏, 1972. 10. 9, 社寺林調査の際, 参道右手斜面にて発見された, 図版 1-1, 2, 3 著者は昭和 50 年 5 月 18 日, 石渡氏持参の生株を同定し, これを確認し, 裸葉のみのため自宅に植栽し, 観察をつづけたが, まちがいなかった。本市教育委員会社会教育課長, 宮沢善弘氏の寺であるので, 継続調査を依頼していたところ寺内の林内に相当多くの群落があることがわかった。

ヘビノネゴザ (蛇の寝御座の意味) は一名カナクサ (金草の意味) ともいわれ, 鉱山の鉱坑や不良鉱石の捨場などによく生えるもので, 特に銅成分を含む鉱山地帯によく生育する傾向がある。これは本シダが酸性地によく耐える証拠である。宮沢氏の話によると, 銅板の屋根の水が絶えず流れる林内によく群落しているという。最近はカドミュウムを大量に体内に蓄積することもわかった。

ヘビノネゴザはサバチェー氏が横須賀付近で採集 (SAVATIER, No. 1552, 1555, 2426) したものが, もとになって新種として *Asplenium yokoscense* FRANCHET et SAVATIER なる学名で発表されたものである (1879)。従って横須賀がこのシダの type locality である。しかるに近年横須賀では, ほとんど見られなくなった。このようなときに上記横須賀に大群落が発見されたことは, よろこばしい限りである。

ヘビノネゴザは耐陽地性, また耐陰地性が強いシダであるので保護は容易である。

附記. *Athyrium melanolepis* (FRANCH. et SAV.) CHRIST ミヤマメシダ

横須賀付近で SAVATIER 氏が採集 (SAV., No. 2419) されたものが原標本となって新種発表 (*Asplenium melanolepis* FRANCHET et SAVATIER) されているが, 横須賀の産地は甚だ疑問である。明らかに産地の誤りであると思われる。

106. *Ctenitis* C. CHR. et TARD.-BLOT カツモウイノデ属

本属の属名中, 命名者を訂正した。

110. *Cyrtomium Fortunei* J. SMITH

var. *clivicola* (MAKINO) TAGAWA ヤマヤブソテツ

足柄上郡: 山北町洒水滝^{しやすい} (渡辺宗徳, 1960. 5. 29 YCM)。

丹沢山塊: 足柄上郡山北町ユーシン^{ユーシン}〜玄倉^{くろくら} (大場秀章, No. 10929, 1962. 8. 24 YCM)。

111. *Cyrtomium Fortunei* J. SMITH

var. *intermedium* TAGAWA ミヤコヤブソテツ

足柄下郡: 湯河原町奥湯河原右の谷 (芹沢俊介, 1973. 11. 18 TUE)。この標本は芹沢俊介氏 (1971) が“採集ニュースの会”の採集会のとき上記で採集されたものである。

112. *Cyrtomium macrophyllum* (MAKINO) TAGAWA ヒロハヤブソテツ

足柄下郡: 湯河原町奥湯河原左の谷 (芹沢俊介, 1973. 11. 18 TUE, 採集ニュースの会

採集会)。

114. *Diplazium nipponicum* TAGAWA オニヒカゲワラビ

足柄下郡：湯河原町奥湯河原 (守矢淳一, 1965. 10. 31, 横浜植物会第 17 回植物展—1974—出品標本を確認)。

116. *Diplazium squamigerum* (METT.) MATSUMURA キョタケシダ (キョタキシダ)

足柄上郡：山北町洒水滝^{しやれい} (渡辺宗徳, 1960. 5. 29 YCM)。

117. *Diplazium subsinuatum* (WALL. ex HOOK. et GREV.) TAGAWA ヘラシダ

横浜市：金沢区朝比奈峠 (高桑正敏, 1962. 2. 10, この標本を確認している)。

増補 (265). *Diplazium Taquetii* C. CHRISTENSEN サイシュウヒカゲワラビ (田川, 1941) G (d) D₁ R₁

足柄下郡：湯河原町奥湯河原 (芹沢俊介, 1969. 12. TUE, 神奈川県では新産)。

本種は TAQUET 氏の済州島産の標本に基いて記載されたものである。ヒカゲワラビとオニヒカゲワラビの中間的な性質のものである。行方沼東氏が栃木県出流山で採られ、イズルヒカゲワラビと仮称されたものがある。芹沢俊介先生も、杉本順一先生もイズルヒカゲワラビはサイシュウヒカゲワラビと同一種と考えられている。森 千春氏が 1930 年に岡山県 (備中)^{じようほう ほうほう かみみすた}上房郡北房町、上水田^{しるにし}で採られたものにビッチュウヒカゲワラビ *Diplazium bittyuense* TAGAWA (田川, 1933) がある。このビッチュウヒカゲワラビは今のところ山形県が北限で、静岡県磐田郡佐久間町城西が東限とされている。芹沢俊介先生はサイシュウヒカゲワラビとビッチュウヒカゲワラビとの関係は検討を要するもので、もし同じであるとすれば、ビッチュウの学名は消えることになるといっている。

118. *Diplazium Wichurae* (METT.) DIELS ノコギリシダ

足柄下郡：湯河原町奥湯河原 alt. 約 500 m (J. KAWASHIMA, No. 568, 1972. 11. 22 YCM)。

121. *Dryopteris austriaca* (JACQ.) WOYNAR ex SCHINZ et THELLUNG シラネワラビ

シラネワラビの学名は最近の Flora Europaea (TUTIN *et al.*, 1964, p. 21) では, *Dryopteris dilatata* (HOFFM.) A. GRAY を採用している。しかしシラネワラビの学名は、まだ未解決といってよい。

122. *Dryopteris austriaca* (JACQ.) WOYNAR ex SCHINZ et THELLUNG
form. *oblonga* (MILDE) H. ITO ナガバノシラネワラビ

この学名をシラネワラビにならって訂正すれば, *Dryopteris dilatata* (HOFFM.) A.

GRAY form. *oblonga* (MILDE) H. ITO となる。学者によっては, *Dryopteris dilatata* var. *oblonga* (MILDE) TAKEDA の学名を採用するが, シラネワラビとナガバノシラネワラビは, その中間型があって, ついには連続してしまうし, また分布も両種が同じであるので, 品種程度にしておくことが妥当である。

シラネワラビ類の学名は上記の訂正されたものを採用するのが望ましく, もし訂正の学名を使用するとなると, その配列順は「128」の次に配置替をすべきである。

124. *Dryopteris kinkiensis* KOIDZUMI ex TAGAWA ギフベニシダ

足柄下郡: 湯河原町奥湯河原中央の谷 (芹沢俊介, 1973. 11. 18 TUE, 採集ニュースの会の採集会のとき), 同奥湯河原バス停より少し進行した石垣 (倉田 悟, 1974. 8. 25 TOFO, 関東有志採集会のとき), 湯河原町鍛冶屋 (大谷 茂, 1974. 9. 5, この標本を日本産シダ植物分布図基礎標本に出す)。

本種の学名を訂正した。

125. *Dryopteris chinensis* (BAK.) KOIDZUMI ミサキカグマ

横浜市: 緑区長津田町^{じゅうせん}住撰の山地, 住撰は一部区劃整理され, 「いぶき野」となっている (稲毛ヒサ, 1934. 5. 27 YCM), 稲毛氏は昭和 49 年 4 月 23 日同地のミサキカグマの生株を持参されたので自庭に植栽, 今日も映盛に生育している。

中郡: 大磯町高麗山 (渡辺宗徳, 1960. 7. 21 YCM)。

126. *Dryopteris crassirhizoma* NAKAI オシダ

平塚市: 上吉沢^{かみきさわ}大山の杉林中 (守矢淳一, 1974. 11 大株を発見—文献産地)。

すでに本誌 14 号 (1968) に報告した次の 2 点 (YCM)。

横浜市: 帷子川流域, 港北区三保町・寺山町 (出口長男, 1952. 10. 15 YCM), 上白根町細谷 (内田光雄, 1955. 11. 20 YCM) は再検の結果フジオシダ *Dryopteris* × *Watanabei* Kurata (倉田, 1965) と訂正する (後記, 増補 266, フジオシダ) 参照のこと。

130. *Dryopteris erythrosora* (EAT.) O. KUNTZE

form. *Viridisora* (NAKAI ex H. ITO) H. ITO ミドリベニシダ

本種の学名中, 旧命名者を訂正した。

132. *Dryopteris gymnophylla* (BAK.) C. CHRISTENSEN サクライカグマ

横浜市: 緑区中山〜上白根間, 寺山町切通し (府川勝蔵, 1933. 5. 14 YCM, この標本は稲毛ヒサ氏より寄贈された, このとき著者も同行したが, 著者の標本は戦災で焼失した)。

平塚市土屋 (守矢淳一, 1967. 8—文献産地, その後見当らないということである)。

134. *Dryopteris hondoensis* KOIDZUMI オオベニシダ

鎌倉市：北鎌倉円覚寺（榎山泰一，1929. 7. 3 TI）の採集地を“鎌倉：覚園寺”と訂正する。

135. *Dryopteris lacera* (THUNB.) O. KUNTZE クマワラビ

横浜市：金沢区六浦町（高桑正敏，1967. 6. 10 この標本を著者が同定した）。

丹沢山塊：愛甲郡塔ヶ岳～足柄上郡ユースン^{ひのきぼら}～桧洞沢（大場秀章，No. 10836, 1962, 8. 23 YCM）。

136. *Dryopteris* × *mituii* SERIZAWA アイノコクマワラビ

三浦郡：葉山町長柄二子谷（石渡 宏，1975. 5. 18，生株持参植栽した）。

学名を雑種名に訂正した。

138. *Dryopteris erythrosora* (EAT.) O. KUNTZE

var. *dilatata* (KOIDZ.) SUGIMOTO トウゴクシダ

1971 年 12 月 14 日付，東京農大の宮崎弘規氏から次の書状が届いた。“発表中のオシダ属のなかにキノクニベニシダが触れられていないが，本年の 11 月 4 日神武寺で採集確認した。本種は変化が大きく神武寺のものも明らかに本種の変異内に含まれるものだと思う”と。

キノクニベニシダ *Dryopteris kinokuniensis* KURATA は倉田 悟先生が紀伊尾鷲市賀田で 1962 年採取されたものを発表したシダである（倉田，1970）。

宮崎弘規氏からの報告で，その後神武寺の標本および現地を調査したが，それらしいものはなく，すべてトウゴクシダと確認したので 1975 年 6 月 17 日にその旨を伝え，再検討を願ったところ，同氏から同年 7 月 7 日付で次の返信があった。“神武寺のベニシダはキノクニベニシダというよりはトウゴクシダとしたほうがよい。また愛知の犬山付近にはトウゴクシダ→キノクニベニシダへの移行型がやたらに多いので，いつも頭をなやませている”のことで神武寺のものはトウゴクシダで著者の意見と同じであった。

学名を変種名に訂正した。

139. *Dryopteris polylepis* (FRANCH. et SAV.) C. CHRISTENSEN ミヤマクマワラビ

丹沢山塊：愛甲郡塔ヶ岳～足柄上郡ユースン^{ひのきぼら}～桧洞丸（大場秀章，No. 10897, 1962. 8. 23 YCM）。

141. *Dryopteris varia* (LINN.) O. KUNTZE

var. *sacrosancta* (KOIDZUMI) OHWI ヒメイタチシダ

平塚市：高根（大磯，高麗山続きの山）の山中（守矢淳一，1974. 5—守屋，1975）。

本種の学名をナンカイイタチシダの変種に訂正した。

142. *Dryopteris varia* (LINN.) O. KUNTZE

var. *Saxifraga* (H. ITO) H. OHBA イワイタチシダ

足柄下郡：箱根町台ヶ岳（城川四郎，1965. 10. 11 YCM）。

本種の学名をナンカイイタチシダの変種に訂正した。

143. *Dryopteris sieboldii* (van HOUTTE ex METT.) O. KUNTZE ナガサキシダ

学名中，旧命名者を訂正した。

144. *Dryopteris toyamae* TAGAWA ナガサキシダモドキ

本種の学名を独立種に訂正した。

145. *Dryopteris sparsa* (HAM. ex DON) O. KUNTZE ナガバノイタチシダ

学名中，旧命名者を訂正した。

150. *Dryopteris varia* (LINN.) O. KUNTZE

var. *setosa* (THUNB.) OHWI イタチシダ（ヤマイタチシダ）

丹沢山塊：足柄上郡ユーシン〜玄倉^{くろくら}（大場秀章，No. 10910, No. 10923, 1962. 8. 24 YCM）。

増補 (266). *Dryopteris* × *Watanabei* KURATA フジオシダ（渡辺兄弟，1958）Ch (e) (r)
D₁ R₃

横浜市：上川井（出口長男，1952. 10 NSM—オシダとして国立科学博物館に収蔵されていた標本を検討された芹沢俊介先生はオシダは誤りで，フジオシダと同定された（1971）。

そこで著者は本館のオシダの標本にあたった結果，次の2点（出口氏1点，内田氏1点）を（126）で訂正した通りフジオシダと同定されたので，改めてこの増補に加えることとする，すなわち：

横浜市：帷子川流域三保町・寺山町（出口長男，1952. 10. 15 YCM），ただし同（同，1952. 11. 14 YCM はオシダである），同：上白根町細谷（内田光雄，1965. 11. 20 YCM）。

芹沢俊介先生の報告によって本県に始めて本種を産することがわかった。フジオシダはオシダとオクマワラビの雑種である。フジオシダは 1958 年頃，渡辺 正・渡辺健 2 兄弟が静岡県御殿場で始めて採取したものである。行方沼東氏は 1963 年に常陸でこれを採集している。

152. *Leptorumohra miqueliana* (MAXIM. ex FR. et SAV.) H. ITO ナライシダ

本種の学名中，旧命名者を訂正した。

155. *Lunathyrium Conilii* (FRANCH. et SAV.) KURATA ホソバシケンシダ

横浜市：保土ヶ谷区上星川町（風見房雄，1961. 11. 4 TI）。

三浦：横須賀周辺（SAVATIER，No. 1555—標本番号をこの1点だけとし，No. 2574, No. 2576 は誤りのため削除する）。

本種の葉柄と葉軸に白軟毛がなく、また鱗片の少ない(ほとんどない)型のものを「form. *Oldhami* (HOOK. et BAK.) KURATA ヤブシダ (中井, 1915) H (d) D₁ R₁」といっている。

156. *Lunathyrium lasiopteris* (KUNZE) NAKAIKE セイタカシケシダ

横浜市: 保土ヶ谷区上星川町 (風見房雄, 1961. 11. 4 TI)。

逗子市: 神武寺 (榎山泰一, No. 142, 1931. 8. 23 TI), 同 (大場秀章, No. 681207, 1968. 12. 15 TI)。

足柄下郡: 真鶴町 (K. HISAUCHI—久内清孝, 1932. 7. 31 TI)。

本種の学名を訂正した。付記のムクゲシケシダの学名も、セイタカシケシダの変種名 var. *kiusianum* (KOIDZ.) NAKAIKE と訂正する。

157. *Lunathyrium japonicum* (THUNB.) KURATA シケシダ

鎌倉市: 鎌倉 (榎山泰一, No. 476, 1933. 11. TI, 本誌 (15): 70 (1969) に報告した際、標本番号を示しわすれたので、ここに報告する。

159. *Lunathyrium petersenii* (KUNZE) H. OHBA ナチシケシダ

横須賀市: 横須賀 (採集者名なし, 採集年なし, Nov. とのみ記入されている, TI), この標本は、採集者も採集年も不明だが、大場秀章先生の推察するところによると、1800年代のものであろうとのことである。

逗子市: 神武寺 (榎山泰一, No. 139, 1931. 8. 23 TI, 本誌 (15): 70 (1969) に報告したとき標本番号を落したので、ここに示す。

足柄下郡: 真鶴, 採集地? (津山 尚, 1932. 10. 14 TI)。

160. *Lunathyrium pycnosorum* (CHRIST) KOIDZUMI ハクモウイノデ

丹沢山塊: 愛甲郡ヤビツ峠~札掛 (大場秀章, No. 10766, No. 10772, 1962. 8. 21 TI), 同郡塔ヶ岳 (同, No. 10870, 1962. 8. 22 TI), 足柄上郡ユーシン~玄倉 (同, No. 10914; 10916; 10917; 10918 以上4点, 1962. 8. 24 TI), 同郡桧洞沢 (同, No. 10835, 1962. 8. 23 YCM)。

161. *Lunathyrium okuboanum* (MAKINO) SUGIMOTO オオヒメワラビ

本種の学名を独立種に訂正した。

163. *Matteuccia orientaris* (HOOKER) TREVIRANUS イヌガンソク

鎌倉市: 北鎌倉山ノ内明月院 (小板橋八千代, 1966. 7. 29 裸葉; 1966. 10. 19 実葉。YCM)。

中郡: 伊勢原町大山 (津山 尚, 1933. 4. 7 TI)。

丹沢山塊: 愛甲郡ヤビツ峠~札掛 alt. 550~800 m (大場秀章, No. 10773, 1962. 8. 21 TI), 足柄上郡玄倉 (大場秀章, No. 10903, 1962. 8. 24 YCM)。

足柄下郡：^{みなずる}真鶴町，真鶴海岸（村松七郎，1925. 8. 30 TI）。

164. *Matteuccia orientaris* (HOOKER) TREVIRANUS

monstr. *incisa* (CHRIST) NAKAIKE ハゴロモイヌガンソク

本種を奇形として学名を訂正した。

165. *Matteuccia Struthiopteris* (LINN.) TODARO クサソテツ

鎌倉市：北鎌倉円覚寺（津山 尚，採集年月日の記録なし，TI）。

中郡：伊勢原町大山（津山 尚，1933. 4. 7 TI）。

小田原市：板橋（大場秀章，1967. 11. 19 TI）。

足柄下郡：箱根町，箱根権現神社（原 寛，採集年なし，11. 9 TI），同町，^{かみやま}神山（^{かみやま}稲山泰一，No. 445，1929. 6. TI）。

クサソテツは往々にして，よく“escape” することがあるので，本来の自生地か否かは，細かく検討することが必要である。

本種の学名中，旧命名者を入れ訂正した。

166. *Onoclea sensibilis* LINNAEUS

var. *interrupta* MAXIMOWICZ コウヤワラビ

小田原市：板橋（大場秀章，1967. 11. 19 TI）。

コウヤワラビの母種は北アメリカ，アフリカ，ヒマラヤ地方，中央アジアに分布している。

167. *Polystichum × anceps* KURATA ドウリョウイノデ

平塚市：土屋琵琶（守矢淳一，1969. 6. 28 この標本を確認している，イノデ×アイアスカイノデの雑種である）。

168. *Polystichum craspedosorum* (MAXIM.) DIELS ツルデンダ

横浜市：金沢区朝比奈切通（採集者の記録なし，1887. 3. 31 TI），同区金沢八景～鎌倉市鎌倉（水島正美，1946. 11. 10 TI）。

鎌倉市：建長寺半僧坊（Shinsuke HATTORI—服部新助氏か？，1923. 2. TI），相模，今泉 IMAIDZUMI（牧野富太郎，1912. 3. 10 TI）。

丹沢山塊：愛甲郡煤ヶ谷村一ノ沢峠東側 alt. 450 m（金井弘夫，1957. 11. 10 TI），同郡タライゴヤ沢～塔ヶ岳（大場秀章，No. 10813，1962. 8. 22 TI）。

足柄下郡：箱根町金時山（水島正美，1951. 9. 7 TI）。

169. *Polystichum fibrilloso-paleaceum* (KODAMA) TAGAWA アスカイノデ

横須賀市：田浦泉町温泉谷戸（伊達健夫，1973. 9. 16，横浜植物会 17 回植物展に出品された標本を確認，1974），相州秋谷（Y. YAMAMOTO，1923. 11. 23 TI）。

三浦郡：葉山町，相模葉山（伊藤 洋，採集年月日の記録なし，TI），三浦双子山（大

場秀章, No. 681226, 1968. 12. 15 TI)。

藤沢市: 江ノ島 (中井猛之進, 1916. 10. 8 TI), 同 (H. MURAMATSU, 1923—大正 12. 11. 30 TI), 同 (Y. YAMAMOTO, 1924. 2. 3 TI), 同 (J. SUGIMOTO, 1928. 5. 3 TI)。

津久井郡: 城山町畑久保 (守矢淳一, 1967. 8. 1 YCM)。

170. *Polystichum* × *hakonense* KURATA ハコネイノデ

足柄下郡: 箱根町, 旧街道畑宿 (伊達健夫, 1959. 11. 15, 横浜植物会 17 回植物展に出品された標本で確認した, 1974)。

本シダはアイアスカイノデとサイゴクイノデの雑種である。

171. *Polystichum* *igaense* TAGAWA チャボイノデ

中郡: 伊勢原町大山 (久内清孝, 1932. 10. 23 TI)。

173. *Polystichum* × *lnadae* KURATA フナコシイノデ

湯ヶ原 (飯田 和, 1960), この記録は倉田 悟先生が日本産シダ植物分布資料 (II) (1974) で, 標本産地としてあげているが, これは湯河原の静岡県側のことであろうか。本館にある飯田 和氏の標本は 1960 年採集のもので, 採集地は伊豆湯河原となっている。

174. *Polystichum* × *Izuense* KURATA カタイノデモドキ

足柄下郡: 湯河原町奥湯河原右の谷 (芹沢俊介, 1973. 11. 18 TUE, 採集ニュースの会の採集会のとき)。

本シダはカタイノデとイノデモドキの雑種である。

176. *Polystichum* *lepidocaulon* (HOOK.) J. SMITH オリズルシダ

逗子市: 神武寺 (Y. YAMAMOTO, 1924. 12 TI), 同 (M. HONDA, 1924. 12. 23 TI), 同 (岡 現二郎, 1925 TI), 同 (津山 尚, 1932. 11. 27 TI), 同 (T. NAKAI, No. 2068, 1931. 6. 14 TI), 同 (I. FURUSAWA, 1938. 10 TI), Jimmuji (M. HUTOH, No. 17353, 1957. 4. 13 TI)。

藤沢市: 江ノ島 (採集者名なし, 1879. 4. 4 TI), 同 (T. MAKINO, 1912. 1. 14 TI), 同 (村松七郎, No. 716, 1923. 11. 30 TI), 同 (M. HONDA, 1925. 1. 25 TI)。

177. *Polystichum* *longifrons* KURATA アイアスカイノデ

三浦郡: 葉山町, 三浦双子山 (H. Ohba No. 681227, 1968. 12. 15 TI)。

鎌倉市: 大町妙本寺 (伊達健夫, 1946. 6. 9 横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認, 1974)。

平塚市: 下吉沢 (守矢淳一, 1969. 6. 15. 横浜植物会 12 回植物展出品標本を確認, 1969. 9. 6)。

中郡：大磯町高麗山 (M. HONDA, 1925. 3. 8 TI), 伊勢原町大山, 相州大山 (T. SATO, 1925. 4. 11 TI)。

津久井郡：城山町 (守矢淳一, 1967. 8. 1 この標本を確認している)。

178. *Polystichum Makinoi* (TAGAWA) TAGAWA カタイノデ

足柄下郡：湯河原町奥湯河原 (中池敏之・芹沢俊介, 1969. 12. 14 YCM)。

179. *Polystichum* × *Mashikoi* KURATA アマギイノデ

足柄下郡：湯河原町奥湯河原, 右の谷 (芹沢俊介, 1973. 11. 18. TUE, 採集ニュースの会の採集会のとき)。

このシダはイノデモドキとイノデの雑種である。

180. *Polystichum* × *miuranum* KURATA ミウライノデ

横浜市：磯子区杉田町妙法寺 (伊達健夫, 1972. 3. 11, 横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認, 1974)。

平塚市：土屋琵琶 (守矢淳一, 1969. 6. 28, 横浜植物会 12 回植物展出品標本を確認, 1969. 9. 6)。

182. *Polystichum neo-lobatum* NAKAI ヤシャイノデ

丹沢山塊：足柄上郡, 西丹沢西沢 (和田 仁, 1973. 8. 19 自生地確認)。

秦野市落合 318 の和田 仁氏が, 伊豆の山本利興, 笹本岩男, 松本 定 3 氏を案内したとき確認されたもので, このことは下田市の笹本岩男氏から著者への書信ならびに文献によって知ったものである。ここに西丹沢のヤシャイノデは健在であることがわかった (和田, 1974)。

183. *Polystichum* × *Ohtanii* KURATA オオタニイノデ

平塚市：土屋琵琶 (守矢淳一, 1969. 6. 28, 横浜植物会 12 回植物展出品標本を確認, 1969. 9. 6)。守矢氏は平塚産ミウライノデとオオタニイノデの生株を送られたので植栽している。

本シダはアスカイノデとアイアスカイノデとの自然雑種である。

186. *Polystichum ovato-paleaceum* (KODAMA) KURATA ツヤナシイノデ

丹沢山塊：愛甲郡, 塔ヶ岳～足柄上郡, ユーシン～桧洞沢 (大場秀章, No. 10860, 1962. 8. 23 YCM), 足柄上郡, ユーシン～桧洞沢 (H. OHBA, No. 10894, 1962. 8. 23 TI)。

足柄下郡：箱根町, 箱根 (採集者名なし, 1910. 6 TI), 同 (I. FURUSAWA, 採集年月日なし, TI)。

187. *Polystichum polyblepharum* (ROEMER ex KUNZE) PRESL イノデ

横須賀市：田浦 (K. HISAUCHI, No. 2262, 1937. 9. 26 TI), 同 (M. TOGASHI,

TNS. (TOGASHI collection) 873, 1951. 12 TI, ミウライノデ型)。

逗子市: 神武寺 (M. HONDA, 1924. 12. 23 TI), 同 (水島正美, 1952. 11. 16 TI), 同 (H. OHBA, No. 2970—ミウライノデ型, No. 2977, 1965. 12. 15 TI), 同 (H. OHBA, No. 2059, 1966. 1. 23 TI, ミウライノデ型)。

三浦郡: 葉山町, 三浦双子山 (H. OHBA, No. 681225, 1968. 12. 15 TI, ミウライノデ型)。

鎌倉市: 鎌倉 (T. MAKINO?, 1915. 1. 31 TI, ミウライノデ型), 同 (水島正美, 1946. 12. 28 TI)。

中郡: 大磯町, 大磯 (伊藤 洋, 採集年月日なし, TI)。

足柄下郡: 真鶴町, 真鶴 (J. MATSUMURA, 1892. 2. 22 TI), 同 (M. HONDA, 1925. 2. 22 TI), 同郡湯河原町, 奥湯河原 (中池敏之, 1969. 12. 14 YCM)。

達磨山 (静岡県田方郡修善寺町, 達磨山 982 m のことであろう) (I. HURUSAWA, 1947. 4. 7 TI)。

190. *Polystichum rigens* TAGAWA オニイノデ

丹沢山塊: 愛甲郡清川村, 札掛 *Fudakake*, alt. ca 600 m (H. OHBA, No. 10775 No. 10776, 1962. 8. 21 TI)。

191. *Polystichum Tagawanum* KURATA イノデモドキ

平塚市: 下吉沢字大山田 (守矢淳一, 1970. 6. 3 YCM), 同市土屋字田代 (同, 1970. 8. 26 YCM; 1971. 8. 1 YCM)。

丹沢山塊: 足柄上郡山北町, 桧洞沢 (H. OHBA, No. 10861, 1962. 8. 23 TI), 同, ユーシン〜玄倉 (大場秀章, No. 10902, 1962. 8. 24 YCM)。

足柄下郡: 箱根町, 旧街道畑宿 (伊達健夫, 1959. 11. 15 横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認, 1974)。

足柄下郡: 湯河原町, 奥湯河原 (中池敏之・芹沢俊介, 1969. 12. 14 YCM)。

192. *Polystichum tripterum* (KUNZE) PRESL ジュウモンジンダ

横浜市: 戸塚区下飯田 (村上司郎, 1971. 7. 23 横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認, 1974)。

逗子市: 神武寺 (Y. YAMAMOTO, 1924. 12 TI), 同 (M. HONDA, 1924. 12. 23 TI), 同 (T. NAKAI, 1931. 6. 14 TI), 同 (I. FURUSAWA, 1938. 10 TI), 同 (J. OHWI 1951, 4 TI)。

平塚市: 下吉沢字大山田 (守矢淳一, 1970. 6. 3 YCM)。

194. *Polystichum tripterum* (KUNZE) PRESL

monstr. *subbipinnatum* (H. ITO) NAKAIKE オオシュモクシダ

本種の学名を奇形名に訂正する。なお解説中のトリアシンダは学名ならびに和名を次のように訂正する。*Polystichum tripterum* monstr. *pedatiforme* (AKASAWA) NAKAIKE

トリアシシュモクシダ。

195. *Polystichum tsus-simense* (HOOKER) J. SMITH ヒメカナワラビ

横須賀市：平作駿河坂 (大谷 茂, 1972. 1. 14 YCM)。

鎌倉市：鎌倉 (伊藤 洋, 採集年月日なし, TI), Sagami, Imaizumi (T. MAKINO?, 1912. 3. 10 TI), 大船不動尊 (大船観音か) (Shinsuke HATTORI, 1923. 2. TI)。

中郡：大磯町, 高麗山 (T. NAKAI, 1917. 4. 30 TI), 同 (Y. YAMAMOTO, 1924. 2 TI), 同 (M. HONDA, 1925. 3. 8 TI)。

足柄上郡：山北町, 洒水の滝 (渡辺宗徳, 1960. 5. 29 YCM, これはすでに報告済だが, その後標本を寄贈されたので改めて発表する)。

足柄下郡：真鶴町, Manazuru (J. MATSUMURA, 1892. 2. 22 TI)。

196. *Polystichum tsus-sinense* (HOOK.) J. SMITH

var. *Mayebarae* (TAGAWA) KURATA オオキヨズミシダ

三浦郡：葉山町長柄, 二子山 (K. TERAMOTO, 1947. 4. 3 TI)。

197. *Polystichum Shimurae* KURATA シムライノデ

将来, 本報告を整理するときは, 本種の配列は<190>の次に位置づけるものである。

200. *Stegnogramma Pozoi* (LAGASCA) K. IWATSUKI

subsp. *mollissima* (FISCH. ex KUNZE) K. IWATSUKI

form. *pilosissima* (H. ITO) SUGIMOTO

<=*Leptogramma mollissima* (FISCH. ex KUNZE) CHING var. *pilosissima* (H. ITO) KURATA; <*Leptogramma pozoi* subsp. *mollissima* form. *pilosissima* (H. ITO) NAKAIKE>アラゲミゾシダ

本種のタイプは伊藤 洋先生が房州で採集されたものから *Leptogramma totta* (WILLD.) J. SMITH var. *pilosissima* H. ITO (1935) として発表されたものである。

アラゲミゾシダについては, 著者は大場秀章先生の所見に賛同し, ここに採用することにした。著者によせられた大場秀章先生の手記 (1971. 2. 15 付) は, 「ミゾシダ属 (*Leptogramma*) をアミシダ属 (*Dictyocline*) など同一の属 *Stegnogramma* として取扱うというのが岩槻邦男氏などの考え方で, 僕もまだわからぬ点もありますが, 賛成です。東アジアのミゾシダはヨーロッパ南部, アフリカの類似種とはよく似たものだそうで, 岩槻さんは, 相互を亜種とみたわけです。命名規約から *Lagascasa* の種名 *Pozoi* を取り, *Stegnogramma Pozoi* とし, ミゾシダは, その亜種で subsp. *mollissima* (FISCH. ex KUNZE) K. IWATS. となります。岩槻さんは, アラゲミゾシダをみとめていません, 僕の知る範囲ではそうです。ですから, この *Stegnogramma* 属でのアラゲミゾシダの学名はないかと思います。一杉本先生はミゾシダの品種として *Stegnogramma pozoi* subsp. *mollissima* form. *pilosissima* (H. ITO) SUGIMOTO を使われている (付記, 大谷) 一僕も野外でアラゲミゾシダというのをみたことはありますが, ミゾシダの毛の長さ, 性質の変化を調べてみると, どうしてその変化の幅を1つにしておき, アラゲミゾシダのそれだ

けを別にするか、理解できません」。

また中池敏之先生は (1971. 1. 16 付書簡) で“アラゲミゾシダですが、注意してみれば確かに母種との間にちがいがいるように思われます、ただそのランクは品種が良いと思います。杉本先生も品種としてあつかっていますし、私もこれで良いと思います”

以上のことから著者も品種として採用することになっている。

201. *Pseudophegopteris* CHING タチヒメワラビ属

Pseudophegopteris bukoensis (TAGAWA) HOLTUM タチヒメワラビ

本種の属名ならびに学名をヒメシダ属から独立したものに訂正した。

202. *Phegopteris* FÉE ミヤマワラビ属

Phegopteris decursive-pinnata (van HALL) FÉE ゲジゲジシダ

203. *Phegopteris connectilis* (MICHAX) WATT ミヤマワラビ

上記 2 種の学名をヒメシダ属から独立させたものに訂正した。

〔付記〕 *Cyclogramma* Jagawa ミゾシダモドキ属

Cyclogramma leveillei (CHRIST) CHING ミゾシダモドキ

本種も上記 3 種と同じくヒメシダの Group であるが、独立させた学名に訂正した。

204. *Thelypteris glanduligera* (KUNZE) CHING ハシゴシダ

平塚市：^{きまわ}吉沢四十畑部落の杉林下 (守矢淳一, 1974. 8 群落を確認—文献産地)。

206. *Thelypteris japonica* (BAK.) CHING ハリガネワラビ

平塚市：上吉沢字立石 (守矢淳一, 1970. 9. 6 YCM)。

足柄下郡：箱根町宮城野 (石渡 宏・西山清治, 1965. 7. 27 YCM, 西山氏の標本)。
このことは先に報告済だが属名のつづりと採集月にミスがあったので、ここに訂正する。

207. *Thelypteris japonica* (BAK.) CHING

var. *formosa* (C. CHR.) NAKAIKE イワハリガネワラビ

横浜市：保土ケ谷区上川井, 今日の旭区上川井町 (村上司郎, 1964. 11. 28 横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認, 1974)。

本種の変種名を訂正した。解説中にあるアオハリガネワラビの学名は *Thelypteris japonica* form. *viridescens* (MAKINO) H. ITO である。

208. *Thelypteris laxa* (FRANCH. et SAV.) CHING ヤワラシダ

平塚市：土屋 (守矢淳一, 1971. 9. 5 YCM)。

209. *Thelypteris palustris* (SALLISB.) SCHOTT ヒメシダ

横浜市：緑区長津田町，昔の大山街道に沿ったところ，道路沿いの斜面に群落，斜面の上は畑で，昔の仕置場（刑場）の跡である（稲毛ヒサ，1976. 5. 17 確認）。本シダは同町住^{じゆうせん}撰の山地にも点々と自生していると稲毛氏は云っている，上記の日に確認している。

平塚市：土屋（守矢淳一，1971. 9. 5 YCM）。

本シダの学名中，旧命名者名を加えた。

211. *Thelypteris torresiana* (GAUD) ALSTON

var. *calvata* (BAKER) K. IWATSUKI ヒメワラビ

横浜市：旭区上白根町大池公園（村上司郎，1973. 7. 15 横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認，1974）。

212. *Thelypteris torresiana* (GAUD) ALSTON

var. *calvata* (BAKER) K. IWATSUKI

monstr. *lophaea* (OGATA) NAKAIKE ヨウラクヒメワラビ

本種の学名を奇形名に訂正した。

213. *Thelypteris viridifrons* TAGAWA ミドリヒメワラビ

横浜市：保土ヶ谷区上川井，現．旭区上川井町（村上司郎，1964. 11. 28，横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認，1974）。

本種を独立種の学名に訂正した。

215. *Cyclosorus* LINK ホシダ属

Cyclosorus acuminatus (HOUTT.) NAKAI ホシダ

横須賀市：平^{ひら}作駿河坂（小坂橋八千代，1972. 1. 14 YCM）。

Thelypteris グループのなかで本種の属を独立させた学名に訂正した。

217. *Woodsia macrochlaena* METTENIUS ex KUHN

form. *glabrata* (NAKAI) SUGIMOTO ジョウシュウコガネ

本種の学名をコガネシダの品種名に訂正した。

222. *Struthiopteris* SCOPOLI シシガシラ属

Struthiopteris niponica (KUNZE) NAKAI シシガシラ

横浜市：瀬谷区瀬谷（村上司郎，1971. 8. 15，横浜植物会 17 回植物展出品標本を確認，1974）。

本種の属名の命名者を訂正した。

223. *Woodwardia* Smith コモチシダ属

本属の命名者が誤っていたので，ここに訂正した。

236. *Asplenium scolopendrium* LINNAEUS コタニワタリ

足柄下郡：湯河原町奥湯河原，中央の谷（芹沢俊介，1973. 11. 18 TUE，採集ニュースの会採集会のとき）。この採集会におけるシダ植物については芹沢俊介先生から著者に翌11月19日付書簡でくわしい報告があった。さらに1975. 5. 3付の書簡にも奥湯河原の3つの谷を図示されてその所在を明らかにされている。

本種の学名を訂正した。

238. *Lemmaphyllum microphyllum* PRESL マメズタ

足柄下郡湯河原町奥湯河原（J. KAWASHIMA, 1972. 11. 22 YCM）。

245. *Loxogramme salicifolia* (MAKINO) MAKINO イワヤナギシダ

本種の学名中，命名者を訂正した。

246. *Loxogramme dulouxii* CHRIST サジラン

本種の学名を訂正した。

247. *Neocheiropteris subhastata* (BAK.) TAGAWA ヤノネシダ

本種を本属に移し，学名を訂正した。

248. *Neocheiropteris ensata* (THUNB.) CHING クリハラン

横浜市：戸塚区柏尾町（村上司郎，1973. 8. 8，横浜植物会17回植物展出品標本を確認，1974）。

249. *Crypsinus hastatus* (THUNB.) COPELAND ミツデウラボシ

横須賀市：観音崎公園（大谷 茂，1976. 5. 9 岩壁に群落するを確認，殆んどが単葉型であった，横須賀市文化財協会の観察会のとき）。

鎌倉市：鎌倉（村上司郎，1966. 8. 12，横浜植物会17回植物展出品標本を確認，1974）。

本種の類は本属を採用することに学名を訂正した。

250. *Crypsinus hastatus* (THUNB.) COPELAND

monstr. *cristatus* (AKASAWA) NAKAIKE ヤトミウラボシ

本種の学名を奇形名に訂正した。

251. *Crypsinus hastatus* (THUNB.) COPELAND

monstr. *incisus* (MAKINO) NAKAIKE フギレミツデウラボシ

本種の学名を奇形名に訂正した。

252. *Crypsinus veichii* (BAK.) COPELAND ミヤマウラボシ

本種の学名を訂正した。

257. *Pyrrosia davidii* (GIES.) CHING イワダレヒトツバ

本種の学名を訂正した。

III. お わ り に

新資料によって、ここに増補訂正を送ることができた。本報告はもちろん従来の先の報告は標本産地によることを原則とした。その標本産地もできるだけ古い時代までさかのぼって採録してきた。いわば本県シダフロラの歴史的報告ともいえる。

これからの新資料は、さしあたって著者が別に発表している“神奈川県植物分布資料”に報告し、将来は「補遺」2にまとめた。神奈川県羊歯植物として変種、品種も含めて、ここに266種をあげたわけである。

文 献

- FNANCHET, A. and SAVATIER, Lud. 1879. Enumeratio Plantarum in Japonia, II: 199, 201, 225, 226.
- 伊藤 洋 1935. *Leptogramma totta* var. *pilosissima*. 植物雑, 49: 434.
- 飯田 和 1963. 小田原付近の羊歯植物の知識. 小田原生物談話会会報, (2): 1.
- 倉田 悟 1965. フジオシダ, シダ類ノート (38). 北陸の植物, 14 (2): 34, 36.
- 1970. キノクニベニシダ, シダ類ノート (50). 北陸の植物, 18 (1): 4, 6.
- 1974. 日本産シダ植物分布資料 II. 日本シダの会会報, 2 (17): 1.
- 増島弘行・石渡治一 1950. 三浦半島植物誌: 21.
- 宮代周輔 1958. 神奈川県植物目録: 97.
- 守矢淳一 1975. 平塚のシダその後. 横浜植物会年報, (4): 18.
- 行方沼東・倉田 悟 1961. 日本産シダ植物総目録: 306, 341.
- NAKAIKE, T. 1975. Enumeratio Pteridophytarum Japonicarum, Filicales: 64-65.
- 中池敏之 1975. カナワラビ類ノート その2, 新雑種ジウムジカナワラビについて. 日本シダの会会報, 2 (23-24): 6-7.
- 大谷 茂 1966. 神奈川県羊歯植物 (1). 横須賀市博物館研究報告, [自然科学], (12): 32-33, 43, 48-49.
- 1967. 神奈川県羊歯植物 (2). 同上 (13): 60.
- 1968. 神奈川県羊歯植物 (3). 同上, (14): 65-67, 78.
- 1968. 調査と研究の会 (横須賀植物会記録). 横須賀市博物館雑報, (13): 24.
- 1969. 神奈川県羊歯植物 (4). 横須賀市博物館研究報告, [自然科学], (15): 67, 70, 85.
- 1970. カワズカナワラビ, 神奈川県植物分布資料 (1). 横須賀市博物館雑報, (15): 23.
- 1973. 横浜に自生するハマホラシノブ. 日本シダの会会報, 2 (15-16): 13-14.
- 1974. 横浜に発見されたハマホラシノブ. 神奈川県植物分布資料 (4), 横須賀市博物館雑報, (19): 7-10.
- 沢田武太郎 1935. 箱根植物雑記 (其四). 植物研究雑誌, 11 (10): 41.
- 杉本順一 1966. 日本草本植物総検索誌 III, シダ植物篇: 192, 213, 242, 282, 296, 403.
- 芹沢俊介 1971. 神奈川県サイシュウヒカゲワラビとフジオシダ. 植物採集ニュース, (54): 62.
- 寺本一雄 1948. 植物分布資料. 植物研究雑誌, 22 (10-12): 46.
- TUTIN, T. G., HEYWOOD, V. H., BURGESS, N. A., MOORE, D. M., VALENTINE, D. H., WALTERS S. M. and WEBB D. A., 1964. Flora Europaea: 21, Cambridge University Press.
- 和田 仁 1974. 西丹沢のヤシヤイノデ健在. 日本シダの会会報, 2 (17): 13-14.

Plate 1

- 1, 2. *Athyrium yokoscense* (FRANCHET et SAVATIER) CHRIST, ...p. 18 Urago, Yokosuka-shi, Prov. Sagami. ヘビノネゴザ (相模, 横須賀市浦郷正観寺, Oct. 27, 1975 宮沢善弘氏撮影)
3. *Athyrium yokoscense* (FRANCHET et SAVATIER) CHRIST, ...p. 18 Urago, Yokosuka-shi, Prov. Sagami. ヘビノネゴザ (相模, 横須賀市浦郷正観寺, Nov. 9, 1975 石渡 宏氏撮影)

Plate 2

1. *Pteris nipponica* SHIEH ...p. 14 Kinugasa, Yokosuka-shi, Prov. Sagami. マツザカシダ (相模, 横須賀市衣笠産植栽品, Nov. 9, 1975 石渡 宏氏撮影)
2. *Equisetum arvense*. LINNAEUS, ...p. 9 Futago-dani, Nagae, Hayama-machi, Prov. Sagami. スギナの胞子茎 (ツクシ, ツクズクシ) (相模, 葉山, 二子谷, Mar. 18, 1966 西條好通氏撮影)。
3. *Polystichum tripterum* (KUNZE) PRESL forma *simplicissimum* (TAGAWA) TAGAWA, ...p. 28 Takotori-machi, Yokosuka-shi, Prov. Sagami. ヒトツバジュウモンジシダ (相模, 横須賀市, 鷹取町, May 6, 1965 石渡 宏氏撮影)。本報告 (4) p. 84, 本文 [193] 参照 (1969)。
4. *Osmunda Japonica* THUNBERG, ...p. 11 Sano-machi, Yokosuka-shi, Prov. Sagami. ゼンマイの畸形葉—ハゼンマイ (相模, 横須賀市佐野町, June 28, 1976 石渡治一氏撮影)。
5. *Osmunda Japonica* THUNBERG, ...p. 11 Sano-machi, Yokosuka-shi, Prov. Sagami. ハゼンマイの一部を拡大したもの (相模, 横須賀市, 佐野町, June 28, 1976 石渡治一氏撮影)。



